

下村悦夫 ヒタツツ 小説家、歌人。明治二十七年二月十六日和歌山縣生れ、昭和二十一年十一月二十九日歿（六四—九五）。筆名下村えつき、下村悦雄、下村紅霞、潮音亭、紀潮雀等。諸職を轉々、傍ら歌作も、ひらり雑誌『講談俱樂部』、『キング』等へ新講談、時代小説を發表。長短二百篇に及ぶ。

著書、歌集『口笛』（大正十二年五月）『十六日和歌山・新宮短歌會』、『人語寫大秘記』（昭和六年六月）『日本平凡社』、『美女狩秘話』（昭和十一年十一月一日一誠社）、『快盜甚内就奇帖』（昭和十二年六月十五日春陽堂書店『日本小説文庫』）、『押切り白木晴』（昭和十四年五月一日古剛地書店）、『人語寫大秘記』全二冊（中篇、下篇・昭和十五年十一月七日博文館『博文館文庫』）、『勘七變化捕物』（再版・昭和十五年十一月）『日本金鈴社』、『勤王散善行』（昭和十六年二月一日交蘭社。再刊・十七年二月）『日本金鈴社』、歌集『熊野うぐい』（昭和十六年二月十五日交蘭社）、『元祿風流侍』（昭和十六年五月）『日本大白書房』、『薄らけ剣俠』（昭和十六年九月十五日大白書房）、『おんぼろ武勇記』（昭和十七年十一月）『日本大白書房』、『薩摩の奇士』全二冊（前篇、後篇・昭和十八年七月五日金鈴社）、『下村悦夫選集』上『捕物秘帳快盜月心歸の』』（昭和二十一年八月）『日本青柳社』、『松平長七郎青春日記』（昭和二十二年五月）『日本叢文社』、『日本小説文庫』、『人語寫大秘記』（尾崎秀樹解説、昭和四十七年十一月）『日本実業堂』、『日本社』等。

